

新しい学びを創造し、発信し、共有し合う児童の育成

～ネットワークとICT機器の活用を通して～

子どもの未来を創る会

〒963-8006
福島県郡山市赤木町7番41号 郡山市立赤木小学校内

<http://d.hatena.ne.jp/tontan2/>

1. はじめに

これからの時代に子ども達に求められる能力は何か。それは幅広い知識と柔軟な発想をもち、それらを活用し、地域や国境を越えてつながる力であろう。そのためには知識は与えられるものではなく、子ども自らが獲得し、活用するものと捉え、学び続けられる環境を作らなければならない。

そのような能力を養うために我々の研究グループでは、授業の中で子ども達が「学び方」や「課題の解決」について常に話し合い、お互いに支え合う学習を構築し成果を上げてきた。しかし、子ども達は学級や学年、学校という限られた枠組みの中でしか人間関係や情報を交流できていない。そこで我々はICTの力を使ってこうした諸問題を解決していこうと考えた。

2. 研究の目的

我々研究グループは、子どもたちが新たな学びの共有を図るためには、学校という枠組みを飛び越え、全国の子ども同士がネットワークでつながり合い、それぞれの学びを紹介し合いながら、新たなスキルやリテラシーを創り上げていける環境を整えていく必要があると考えている。そのためには映像と音声で子どもたちが常につながり合える環境が必要である。これまでICT機器は、教師から児童へ情報を効率的に伝達するための手段として使われることがほとんどであり、コミュニケーションの道具としての機能が十分に発揮されていない。そこでICT機器の利便性を最大に生かし、子どもたちと子どもたちの、学習と学習とのコミュニケーションツールとして活用していこうと考えた。全国の子どもがつながり合い、学びを共有することによって日本の教育は学校という枠に縛られることのない、開かれた学びを創造することができると考えた。この研究計画を実現することで、子ども達はICT機器の本来の利便性を生かしながら学習の情報交流を密に行っていくことができる。これらはICTを活用した知のネットワークの先進的モデルとなるだろう。

3. 研究の方法

(1) スカイプや facetime を使った「となりの教室」を作り出す

本研究では、研究グループメンバーのクラスをスカイプで結び、子どもが授業中でも休み時間でも様々な学校と常につながり合える環境を構築していこうとしている。それによって学級や学校という枠組み

を超えて、子どもたちが学びを共有できるようにする。多くのこうした実践研究では、共同の授業を企画し共通の課題設定で授業をすることが多い。しかし、そうした授業は常に「特別な授業」であり、日常的な子どもたちの学習とはかけ離れていることが多い。そこで我々の実践では特別な共通課題を設定することなく、それぞれの教室の様子がいつでも「見える」という状態をICT機器を活用して作り出した。そこから見えてくる他の学級の学習課題や学び方などを意識させ、必要に応じて共有化を図るようにしていく。グループメンバーには2名の海外日本人学校の教師も所属している。そうした海外の学校とも、ICT機器によって距離感なくつながることができるようにした。

(2) 子ども未来会議の開催

ただし、こうしたネットワーク上のつながりは相手の教室の全体的な様子は分かっていても、子どもたち一人一人の考えや取り組み方などは見えにくい。そこでネットワーク上でつながっている子どもたちが一同に集まり、子どもたち自身が自らの授業を高めるための話し合いができる場「子ども未来会議」を設定するようにした。

4. 研究の内容

(1) 教室と教室との学び方の共有化

- ・相手側の子どもたちがどのように課題解決に取り組んでいるのか子どもたちが見ること
- ・違いとよさを見つけ、自分の授業と比べながら子どもたちが振り返ること
- ・相手側のよさを自分たちの授業に取り入れていくこと

(2) 子ども未来会議

- ・ネット上でつながっている子どもたちが実際に会って話ができる場を設定すること
- ・テーマを設けて今後の授業のあり方について子どもたち自身で考える場を設定すること
- ・話し合った内容を全体で共有化すること

5. 研究の経過

(1) 教室と教室との学び方の共有化について

① 福島県新地町立福田小学校における授業の変化

○教師の振り返りから

交流開始前は、「この問題が分からないので教えて下さい」というように「解き方」を質問する児童が多いのではないかと予想していた。しかし、実際に交流した時に出てきた質問は「どんな自主学习をやっているのですか。」「ホワイトボードはどんな風に使っているのですか。」というものであった。つまり、児童は「問題の解き方」ではなく、「学び方」を交流したいと考えていたことが分かった。実際に、本学級では、赤木小学校の取り組みを参考にして自主学习で予習を行う児童が増えた。

こういった「学び方」や「学んでいる姿」の交流は、既存の手紙や電話での交流では難しいだろう。映像を使ってリアルタイムで教室を繋ぐ、という本研究ならではの交流であったと感じる。



【子ども未来会議の報告会】

②福島県郡山市立赤木小学校の子どもの振り返りと授業の変化から

○子どもたちの振り返りから

- ・自分のクラスと同じだと思ったことは男女関係なく勉強していることと、いつ誰と話してもよいように班になっていることです。違うと思ったことは話している相手だけがしゃべるのではなく、皆がしゃべっていた所です。私のクラスは皆話すことがうまいけど、あの（交流した）クラスは皆聞き上手でした。どうしたらそんなに雰囲気の良いクラスをつくれるのか知りたいです。
- ・僕が同じだと思った事は、クラスみんなで本を読み合い、それについてみんなで話し合うことです。みんなの意見をよく聞いて、自分も意見を言ったりする所は似ています。それにホワイトボードなどを使って話したことを書き出したりする所も似ていました。違うなあと感じたところは読んでいる本にふせんなどを貼って、自分が知りたいことをわかるようにしている所です。本にはたくさんさんのふせん貼ってあるのが気になりました。

③兵庫県西宮市立西宮浜小学校の授業の変化から

○子どもたちの振り返りから

- ・赤木小学校の子は勉強がすごい進んでいてすごいなあと思いました。6年の漢字もやってみたい。
- ・赤木小学校の勉強を見て、机の向きを同じようにしたいと思っている。
- ・4年生においつかれていてすごくがっかりだった。だけど、がんばっておいぬかれないようにがんばるぞ。
- ・上の学年の勉強をやろうと思いました。ちゃんと復習と予習をやりたいと思います。



○教師の振り返りから

【学び方の違いはどこ？】

だいたい、4年生なのにもう5年生や6年生の漢字もやっていてすごい、自分もやりたいという感じでした。また、他の授業も見たいという意見もたくさんありました。学習には関わらないことも、聞いてみたいです。そして、中には学び方に目をつけている子もいました。

④埼玉県狭山市立入間野小学校の変化から

○子どもたちの振り返りから

今つないでいた赤木小の6年生のクラスはなにもかもが集中していてすごかったです。私たちのクラスに持っていないものをたくさん持っていました。私たちもすごいところを持っているけれど、やっぱり上にはも一っと上がいるってということを見て分かりました！だから赤木小の6年生のよいところをたくさんまねして「世界ナンバー1」のクラスにしたいと思います。

○教師の振り返りから

子どもたちは大いに刺激を受けていました。「みんなで協力している」「全国トップレベルを目標にしている」福島県の学級の子どもたちが力強く話していることが特に印象に残っていました。



【オーストラリアとつなぎながら】

⑤ オーストラリア パース日本人学校の変化から

○教師の振り返りから

本プロジェクトでは学校・県・国を超えて教室をつなぐことができた。ごく日常の様子をつなぐだけだったので構える必要が無く、日程もフレキシブルに設定でき、フットワークが軽く取り組むことができた。この「日常的につなぐことができる環境」が実現できたことが、とても大きな成果だと考える。

本校は、少人数の日本人学校である。他の日本の小学生と交流できる機会が少ないため、本プロジェクトで日本の小学生と交流できたり、日本の小学校の様子（教室・授業風景）に触れたりできることは、いずれ日本に帰国する予定のある本校児童生徒にとって、有益なものであった。教室をつなぐことで、教師同士の交流もできる。互いの実践について情報を交換するなど、教師同士が高め合う場にもなった。



【パース校での協同学習の様子】

(2) 子ども未来会議の様子

開催日：平成23年11月19日 13:00～16:30

場所：宮城県仙台市体育館 会議室

参加校：郡山市立赤木小学校 新地町立福田小学校 石巻市立二俣小学校

神奈川県横浜市立金沢小学校教諭 各校保護者・教師

話し合いのテーマ： テーマ1：「学び合うって何？」

テーマ2：「どうすれば学級をチームにできるの？」

テーマ3：「学び合う学習って親はどう思うの？」

テーマ4：「学校を変えちゃおう」

テーマ5：「みんながつながり合うために」



子どもたちのまとめより

S児

未来会議。グループは違う学校が二人、そして残りは赤木小学校のみんな。まず私たちが話し合ったのは、学び合いがうまくいくときといかないときの話。私もいつもの勉強を見直すチャンスだと思った。正直、普段はそんなこと考えてもないから意見が言えるかどうか不安だったんだけどね。でも

そんな心配は一切いらなかった。うまくいくときは男女がうまくまざりあっているとき、逆にうまくいかないときは、心が開けていないときやグループ学習になっているときだなんて意見が出てきた。そこからどうしてグループ学習になってしまうのか考えてみた。みんなの意見をまとめていくと、簡単に言うと「不安」という話だった。私はいつも「不安」なんて思わないからその気持ちはよく分からなかった。けれどもそんな気持ちで勉強している人もいるんだね。だから私たちはその対策を練ったんだ。そんなわけで今度はそれを学習にいかしていきたい。



【学級をチームにするって？】



【学び合う授業を親はどう思う？】

A児

先生がとつぜん「チームってどんなの？」と聞いてきた。そういえば何がチームなのかなんて考えたこともなかった。確かに学級はチームでなくちゃいけない。でもどうすればチームになるのかが分からない。「あなたたちのクラスはチームになっていますか？」と聞かれば「いいえ」って答えると思う。私たちの今の学級はみんな仲良しだけれども、問題点もたくさんある。でも「この学級を変えよう」なんて思う人はあまりいない。でも私は改めて「この学級は変わらなければならない」と思った。今日の未来会議で私は「チーム」のことを話し合った。するとさっきのようにたくさん問題点と同時にたくさんの解決策などもでてきた。やっぱりみんなが「この学級をよりよい学級にしたい」と思わなくちゃいけないと思う。そういうふうにしたいとみんなに思わせたり、先生や学校を動かす力を持っているのは他の誰でもなく私たち自身なんだと思う。

※ これらのまとめは「学び方教科書（仮）」として24年度の活動で電子教科書として子どもたちが共有化できるようにしていきます。（apple社のibook authorを利用して）

6. 研究の成果と課題

○教室と教室をつなぐことで学びの共有化が図れる

距離の離れた学校同士がテレビ電話やインターネットを通して共通の課題で学習するような試みは従来から行われてきた。しかし、我々は課題や方法ではなく、「学び方」を共有することを目的としてきた。お互いに「授業をする姿」を見合うことで、子どもたちが気づいたことを拾い上げることで、クラスの学び方を向上させられることが分かった。「研究の経過」で示したように、子どもたちは相手の教室の様々な部分に目を向け、自分たちの学び方を向上させようとしている。これらは「教室の学習の仕方は担任（または教科担任）が決めるもの」という従来の授業の在り方を超えて、子どもたち自身が自分たちの学び方をつくり上げていくという授業の先進的なモデルとなるだろう。こうした試みによって、これまで教師の力で左右されてきた授業づくりが、子どもたちの手で行えることが検証できた。こうした学びの共有化はICTが切り開く新しい未来だと我々は考えている。

○子ども未来会議の持つ可能性

近年の機器や通信回線でも相手の考えや表情まで写し込むことは難しい。そうした欠点を補うためにも実際に子どもたち自身が実際に出会い、同じ場で考えていける機会を設けていく必要がある。実際に「子ども未来会議」は、これまで画面で出会った相手と実際に出会い、一緒に授業づくりを考えることで、これまでにはなかった高度な話し合いが生まれた。ICT 機器の活用と同時に人と人とのコミュニケーションの在り方も大切にしていくことの重要性を改めて理解することができた。

●子どもの個人情報

グループ内の取り組みは、おもに facebook のグループ内で行われてきたが、動画や写真などを通して子どもの顔や名前などが出てしまうためにどうしても非公開にせざるをえなかった。そこで個々のブログ等で成果を発信してきたが限界もあった。こうした取り組みが多く先生方に知られるように、facebook のグループを公開できるようにしていきたい。

●より多様なネットワークの構築

グループは10名ほどで運営されているが、機器の不足や教師の ICT に対するリテラシー不足で思うようにつなげられないこともあった。そこで今後の取り組みとして、電子教科書作成にも取り組み、その電子教科書を介して高度な授業作りを行っていきたいと考える。